



こんにちは、医療ソーシャルワーカーです。

平成30年秋に、本館1階の診療支援エリアに設置されました「こども・家族医療サポート室」に退院支援の看護師と同居しながら連携して業務を行っています。医療ソーシャルワーカー4名が患者サポート相談窓口として、療養上のご相談、生活上及び入院上の不安等についてのご相談をお受けしています。

## 医療費が心配です。暮らしや療養に役立つ制度はありますか。

入院時に利用できる助成制度、病気の種類、治療内容などによって受けられる医療費の制度等のご相談をお受けしています。また、身体、療育、精神の各種手帳の取得や、退院に向けて必要な、車椅子などの補装具、吸引器などの日常生活用具の給付などの受給の仕方、療養を支える手当や年金の取得のご相談にのっています。

## 入院中、勉強が遅れてしまうのではと心配です。

通学期間が2週間以上見込まれる義務教育の子どもについては、隣接する大府特別支援学校で授業を受けることができます。病状によって、センター地下の学習室、ベッドサイドでの学習形態もあります。年間70人ほどの子どもたちが通学しています。

## 主治医から成人期の病院への転院についての話がありました。

当センターでは小児を専門とした病院のため、10代後半の子ども病状等によっては、主治医から転院の話をさせていただくことがあります。転院先については主治医と相談しながら、お手伝いをいたしますので、ご相談ください。



その他、悩みごと、お困りのことがありましたら、いつでも気軽にご相談ください。相談時間は9時から17時です。院内外のご多職種と連携しながらお手伝いします。



## 医療連携室 (患者様をご紹介いただく医療機関の皆様へ)

当センターの医療連携室は、地域の医療機関の皆様との円滑な連携に努め、患者様に専門的な医療を提供しております。

ご利用には「登録医としての登録」と登録医からの「診療申込み」が必要となります。当センターの医療連携室を是非ご活用ください。

TEL.0562-43-0508 FAX.0562-43-0510

URL: <http://www.achmc.pref.aichi.jp/>

受付 火曜日～土曜日

時間 9:00～17:00

祝日、年末年始を除く。土曜日が祝日の場合も受付、ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日を除く。



## 外来診療のご案内

- 外来受付は、A～Dのブロックごとの受け付けになりました。
- 再診の際は、再来機受け付け後、グリーンファイルを各自で取り、診察へお進みください。
- 詳細については、ホームページ等でお確かめください。
- 当センターの受診は、紹介予約制です。お電話にてご予約ください。



予約電話番号 **0562-43-0509** ファクシミリ **0562-43-0510** (9:00～17:00まで)

◆診療時間  
午前9時から正午まで / 午後1時から午後4時まで

◆休診日  
日曜日・月曜日・祝日・年末年始  
ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日は休診日。土曜日が祝日の場合は診療日

## あいち小児保健医療総合センター

〒474-8710 大府市森岡町七丁目426番地  
TEL(0562)43-0500 FAX(0562)43-0513  
URL: <http://www.achmc.pref.aichi.jp/index.html>



# アチエメックの風

## あいち小児保健医療総合センターだより



第58号

令和3年夏発行

●発行●  
あいち小児保健医療  
総合センター

## 診療科トピックス

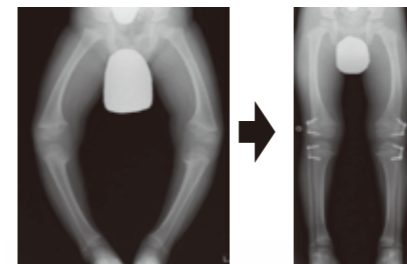
### 子どもの変形を治す整形外科

整形外科

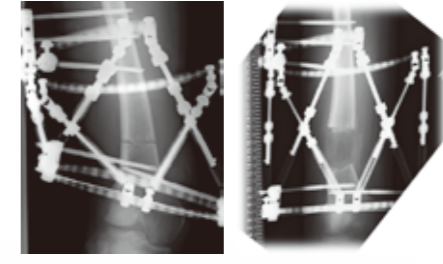


整形外科はオルソペディックスといいますが、オルソは「まっすぐに矯正する」、ペディックスは「小児」という意味で、小児の身体の変形を矯正する診療科として始まりました。現在ではその対象範囲は拡大し、「運動器」(骨や関節、筋肉や神経など身体を動かすために必要な器官)全般を扱います。「外科」が付いていますが、手術以外の治療法も多く、「運動器科」といった方が適切かもしれません。高齢化社会となり健康寿命が注目されていますが、整形外科は腰や膝など運動器の機能を維持する科として重要性を増しています。一方で、子どもの整形外科は少子化に伴って需要は減っていますが、その特殊性から小児専門の病院で治療することが多くなっています。

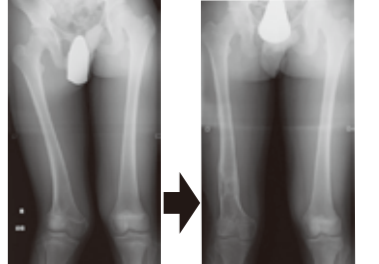
小児センターでは、整形外科の原点である「小児の身体の変形を矯正する」ことをメインに治療しています。体重を支えるのに重要な下肢(太もも、すね、足)が変形(O脚、X脚、内反足など)すると、大人になってから痛みなどの支障が出やすくなります。それを予防するために、筋肉や腱を伸ばしたり、成長線の伸びをコントロールしたり、骨を切ったりして子どもの身体の変形を正常に治します。また、特殊な器具や最先端のコンピュータープログラムなどを駆使して、子どもの身体への負担が少ない治療を実践しています。生涯にわたり生活の質を維持できるよう、長期的な視野に立って治療します。



くる病のために著明なO脚の方に対し、膝周囲の成長線の伸びを金属のプレートでコントロールすることにより変形を矯正しました。



原因不明で右大腿骨(太ももの骨)がX脚に曲がって短縮してしまった方に対し、テイラーフレームという器具を用い、コンピュータープログラムに基づいた変形矯正を実施しました。



骨の腫瘍で右脚が短縮してしまった方に対し、創外固定器という器具を使用し、大腿骨(太ももの骨)と脛骨(すねの骨)を伸ばして左右の脚の長さを補正しました。

